一般財団法人アーネスト育成財団

第 13 期(2024 年度)

事 業 計 画（案）

１．事業概要

財団設立から 12 年を経過し､財団が取り組む技術経営人財育成の重要性が増している。世界は大きな変革の嵐の中にある。経済戦争ではなく、国と国とが戦うリアルな戦争が身近なところにあり、平和な日本のままでどこまでいられるのかという緊張の時代が到来している。

少数与党になった石破内閣が 11 月 11 日に発足した。米国では、事前の予測に反して大統領選でトランプが圧倒的な勝利を収めた。政治の世界では、予測が不可能な大変革が起きようとしている。

日本の国力の低下が、政治の世界でもやっと議論されるようになった。原因の一つには、日本の多くの企業が内向きの経営に取り組んでいるからだと言われる。日本の主要企業が株主への配当重視の政策に傾き、研究開発への投資の抑制や設備投資の抑制をすることで利益出しに走った。その結果、国際競争力を低下した。守りの経営に走り、人財への投資までを含む将来の投資を怠った結果が「失われた 30 年」を過ぎ「失われた 40 年」になるとまで言われるようになった。

日本の製造業は、短期雇用の非正規社員制度によって、日本の製造業の現場力を無くしてしまった。日本の製造業の模範でもあったトヨタの国内の工場でも、非正規の従業員が結構多くなっていると聞く。非正規の従業員が増えてくると、３年といわれる有期雇用の社員に教育をしなくなり、日本の企業の強みの現場力がなくなった。日本の工場から５Ｓ（整理、整頓、清掃、清潔、躾）がなくなった。

財団は本年(2024 年)４月４日に「風の時代を読む」という研究会の準備会合を開催し、5 月 30 日に第 1 回目の研究会を設立した。設立の目的は、新しい時代にどのような対応をすべきかを含め、知見とか、考えとかが整理できればと思っている。現状の日本経済は予測できないほどの環境変化の中にあり、技術経営人財育成の重要性がさらに増している。

財団は、中小企業の経営者に狙いを定めて経営者育成に取り組んでいる。混沌としている変革の時こそ中小企業が躍進する機会でもある。

「失われた 30 年｣を過ぎている中で財団は変革の嵐に耐えられる企業経営を研究し、得られた知見を効率的に経営者に教示できるかを問われている。

２．西河技術経営塾実践経営スクール

企業と日本を元気にする実践的経営を学ぶ。「技術経営学」を学び、強みを明確にした経営を教示する。

次の学びの成果があるとしている。

（１） 売上を１０倍にする西河技術経営を学び、雇用を増やし、税金を払う。
（２） お金が企業の血液であることを学ぶ。
（３） 実践的思考、変革的思考を受講生参加型で育成する。
（４） 日本的技術経営研究の成果に基づいた体系化されたカリキュラムで学ぶ。
（５） 自社の経営課題を題材にし、明日から使える実践的な経営を学ぶ。
（６） 誠実な経営人財を育成する。

２．１　西河技術経営塾（代々木校）

西河技術経営塾（代々木校）第 13 期は、2025 年９月に開塾する。原則、水曜日の午後６時から午後９時 10 分までとする。

対面形式で財団内会議室を使用して運営する。

２．２　西河技術経営塾（沼田校）

利根沼田地区の経営者を主に対象として第６期生を募集し、2025 年３月に開塾する。開塾にあたっては、小坂建設㈱（小坂哲平代表取締役）から協賛を得るとともに、地域創生に寄与する中小企業の経営者を育成する塾との位置づけで沼田市の後援を受けることで申請する。原則、隔週土曜日の午前９時 30 分から午後５時までとする。対面形式でテラス沼田６階　防災会議室６０２号室（群馬県沼田市下之町８８８番地）を借用して運営する。

２．３　西河技術経営塾ネット入門講座（公益活動）の取り組み

西河技術経営塾の更なる発展を目指し、YouTube を使った「ミニ講座」の動画配信に継続的に取り組む。財団活動の公開性を高めることに目的を置くとともに、西河技術経営塾で取り組む経営者育成の周知、塾修了生の学び直しの支援、外部研修への参加者への資料提供等ができるものと考えている。

３．技術経営人財育成セミナーの開催

「変革期のリーダーが学ぶことは何か」とのテーマで、３か月に１回程度、人財育成セミナーを昨年度に引き続き開催する。参加定員は 18 名とし、財団内会議室で実施する。

４．調査研究委員会

４．１　風の時代を読む研究会

『風の時代』では、これまでの資本主義・経済活動の基盤作りの時代から個々の権利や自由を開放する時代へと変わる。個人、個々の自由と権利、平等性がさけばれ、ネット社会において人と人との繋がりが希薄になる中でいかに人との関わり合いを作り上げるかが重要な時代となっている。座長に日本経済大学教授の森下あや子が就任した。

４．２　その他の研究会活動

社会変革が急速に進行している。修了生が求める経営に関する情報とは何かの観点でリサーチを継続する。取り組むべき事象が発生した場合は、理事会に提案をして審議、決定する。

５．広報・広告宣伝

「一般財団法人アーネスト育成財団」というコーポレートブランド、「西河技術経営塾」や「技術経営学」というプロダクトブランドおよび「技術経営人財の育成」というエンジニアリング・ブランドを構築する。

５．１　ホームページの保守・運用

ホームページ（https://www.eufd.org）は、昨年度に引き続き公開可能な情報をタイムリーに掲載し、実務に役立つ日本型技術経営（MOT）情報を公開する。

現状、講座・セミナーを告知するためのサイトは多々あるが、財団ではこれまで活用していない。試験的にいくつかを活用して、評価しながら、財団の活動の認知・告知を広げていくことで、財団活動のプレゼンスを高める。

５．２　活動報告書（情報紙 Earnest、印刷）の発行

昨年度に引き続き、財団の活動を広報する目的で、「誠実を伝える情報紙 Earnest」を３か月に１回、年間４回発行する。

５．３　広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や一般社団法人日本開発工学会の学会誌「開発工学」などへ広告を掲載する。

５．４　新年賀詞交換会

2025 年 1 月 22 日に新年賀詞交歓会を帝国ホテルにて開催する。130 名に招待状を送付する。

６．外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組む。

（１）西河技術経営学沼田塾

西河技術経営学沼田塾（代表　小坂哲平：代々木校５期生）は、沼田校で塾の進行と講師を担当した小坂が地域経営者の育成のためにつくった塾である。

沼田校の修了生が塾生になって、「西河技術経営学」に関わる実践的な研究を行う塾であると設立趣意にある。本年度も沼田塾メンバーと経営学に関する研究会を共催し、意見交流を行う。「西河技術経営塾（沼田校）6 期」の開塾式や修了式に招聘する。財団は、沼田塾からの要請に応じて、活動を支援する。

財団が抱える学び直しの課題解決に取り組むＯＢ塾としての位置づけで、希望する代々木校 OB を含めた活動になるよう協議し、支援する。

（２）敬愛大学

寄付講座（『経営シミュレーション（西河技術経営学入門）』）に取り組む

（３）一般社団法人日本開発工学会

役員への就任、事務局事務所の提供、活動支援など

（４）芝浦工業大学校友会活動

校友会役員、活動支援など

（５）芝浦工業大学校友会 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長）

支部役員、活動支援など

（６）一般社団法人アフリカ協会（淺野昌宏副理事長）

会員活動など

以上